

10月の行事予定



日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	三條南RC 会場三条ロイヤルホテル 「ライラ報告会」	三條北RC 「職業奉仕月間」卓話 (株)マルソー 会長 渡辺喜彦様	三條RC 会場ハミングプラザ ビップ 卓話 樺山仁会員	三條東RC 「米山月間」 燕RC 通常例会 加茂RC 「米山月間」	吉田RC 通常例会	赤い羽根 街頭募金 ジャスコ 三条店
7	8	9	10	11	12	13
	体育の日	三條北RC 卓話「食育」 三条市食育推進室長 田村 直様	三條RC 会場三条ロイヤルホテル 卓話 陶芸家 石田一平様	三條東RC 卓話国定市長 燕RC クラブ・フォーラム 加茂RC 外部卓話	吉田RC 通常例会	
14	15	16	17	18	19	20
	三條南RC 会場三条ロイヤルホテル 卓話 田中久作会員	三條北RC 「米山月間」 奨学生北・チロ・チャンサーさん	三條RC 一泊移動例会 (親睦旅行)	三條東RC 会員卓話 燕RC 外部卓話 加茂RC 職場例会	吉田RC 夜例会	
21	22	23	24	25	26	27
	三條南RC 「職場例会」	三條北RC 夜例会 「お月見会」	三條RC 会場ハミングプラザ ビップ 卓話 土田友江様	三條東RC 移動例会 燕RC 外部卓話 加茂RC 夜例会	吉田RC 通常例会	
28	29	30	31			
	三條南RC 会場三条ロイヤルホテル 「米山月間」	三條北RC 卓話 堀田正弘会員	三條RC 会場ハミングプラザ ビップ 「職業奉仕月間」			

★上記以外RC 火曜日 田上あじさい・分水 水曜日 巻 木曜日 見附
記帳受付

17日(水) 三條RC (三条信用金庫本店)
18日(木) 加茂RC (加茂市産業センター)
19日(金) 吉田RC (山岸会計事務所)
22日(月) 三條南RC (三条信用金庫本店)
25日(木) 三條東RC (三条ロイヤルホテル)
25日(木) 加茂RC (加茂市産業センター)
30日(火) 田上あじさいCF (田上町商工会館)
30日(火) 分水RC (新潟大栄信用組合本店)

三條RC・三條南RCは例会場が変更になります。
マークアップされる場合は事務局までご連絡下さい。

10月17日(水) 地区大会記念ゴルフ大会
11月17・18日 地区大会(朱鷺メッセ)
2008.3.22 会長エレクト研修
2008.5.17 地区協議会
2008.6.14 三條南RC 40周年記念式典

お知らせ

三條北ロータリークラブ週報

例会日2007. 10. 2 累計 No.1008 当年No.13

国際ロータリー会長
ウィルフリッド J.ウィルキンソン
地区ガバナー
渡辺 敏彦
北クラブ会長
山中 正
幹事
小林 繁男
SAA
安田 貞夫



例会日:火曜日 12:30 ~ 13:30
例会場:三条ロイヤルホテル TEL 34-8111 FAX 34-8114
事務局:三条市本町 3-5-25 三条ロイヤルホテル内
TEL 0256-35-7160 FAX 0256-35-7488
ホームページ: <http://www.sanjo-nrc.org>
メールアドレス: north@sanjo-nrc.org

本日の出席:
68名中46名
先々週の出席率:
68名中45名66. 18%
(前年同81. 67%)

先週のメイクアップ:(敬称略)
9月26日三條RCへ 山上茂夫
27日燕RCへ 米山忠俊
山口龍二、加藤 賢
石川勝行
29日米山委員長セミナー
(新潟) 山本 賢
30日地区研修リーダー会議
(東京) 中條耕二

本日のゲスト:
マルソー株式会社
会長 渡邊喜彦様

本日のビジター:
三條RC 小越憲泰さん

本日の行事:
「職業奉仕月間」

会長挨拶

山中 正会長



本日もメンバーの皆様にはお忙しい中を例会にご出席頂き誠に有難うございます。
本日の例会行事は後ほどご紹介がございましたが、職業奉仕月間にちなみまして先輩クラブであります三條RCの2002-2003年度の会長でいらっしゃるマルソー株式会社の渡辺喜彦会長さんをお招きし、卓話を頂戴する例会でございます。ご多用の中をお越し頂きまして誠にありがとうございます。後ほど卓話をお願い申し上げます。
さて、当クラブの社会奉仕活動がいよいよ動き出しました。先般の例会でも少しご紹介致しましたが、本年度はふたつの事業を予定しております。そのひとつは『体の不自由な方々をビッグスワンにお連れしアルビレックス戦を観戦し勇気と感動を得たい』そんな事業が予定されております。昨年の社会奉仕活動で新潟アルビレックスとご縁を頂き市内の小、中学生のサッカー少年に新潟アルビレックスのプロの選手からサッカーの指導をして頂きました。おそらくサッカー少年達は憧れのプロの選手から指導を受け、一日過ごした時間は大げさに言えば一生の思い出となるでしょう。
しかし、サッカーが大好きでも体が不自由だからサッカーが出来ない、スタジアムに行くことすら出来ない人たちもいるのです。しかし、その人達は、体が不自由でも日々一生懸命生活しているわけですが、時として将来に不安を抱えている事も事実です。そこで、本年度、星野委員長率いる社会奉仕委員会では、体の不自由な人々を『ビッグスワン』にお連れして普通の人でも体験できない、グラウンド脇に降りたり、施設のあちこちを見学したりしてアルビレックス戦を観戦する予定です。ゴールを目指してひとつのボールを追いかける選手の姿を目にし、それを支えるサポーターの歓声の中で、感動し夢と勇気を得る事が出来るなら、と考えております。
広いスタジアムの中での事業ですので委員会のメンバーだけでは体の不自由な人々をお連れするには大変です。多くのメンバーの当日の事業へのご参加、ご協力を宜しくお願い致します。



「ロータリーの友」

10月号紹介

*横組み 15頁
「蚊取り線香に魅せられし50年」
*横組み 16頁
「まつりを奉仕する」
*縦組み 7頁
「くらぶ探訪」京都南RC

幹事報告 小林繁男幹事

- ・三条RC、三条南RCより
例会場変更のお知らせ
10月、11月は信金の都合で例会場変更となります。メイクアップは会場の確認をお願いします。
- ・ウィルキンソンRI会長より
第99回国際大会のご案内
期日 2008年6月15日～18日
会場 米国ロサンゼルス
- ・ロータリー囲碁同好会より
第6回全国大会開催のお知らせ
日時 2007年11月24日（土）9:30～
会場 日本棋院会館（東京・市ヶ谷）
- ・第四分区藤井AGより
地区大会プログラム掲載広告募集について
10/10ㄨ切り
- ・三条市青少年育成市民会議より
青少年関係団体懇談会開催について
日時 10月12日（金）午後7時～

第4回理事会

開催日：平成19年10月2日（火）11：30～12：30
開催場所：三条ロイヤルホテル 出席者数12/14（内委任状1）
出席者：山中 小林（満） 刈岡 小林（繁） 本間（建） 横田
岡田 斎藤（正） 石川（友） 米山（キ） 青柳 星野
オブザーバー 西村

- | | |
|--------------------------------|----|
| 協議事項：1. 社会奉仕事業の件 | 承認 |
| サッカー観戦招待（ハンディを持った子ども達）10/27（土） | |
| 親子食育体験 11/17（土）予定 | |
| 2. GSE受け入れ詳細の件 | 承認 |
| 三条東RCが中心となって実施 | |
| 大野会員宅にホームスティ（2名） | |
| 歓迎会出席者（会長・幹事・国際奉仕正副委員長・大野会員） | |
| 3. 私のメッセージ小学生大会後援依頼の件 | 承認 |
| 4. 地区大会プログラム広告掲載依頼の件 | 承認 |
| 5. 報告事項 | 承認 |
| みどりの羽根募金 13,000円送金 | |
| 6. 月見例会の件 | 承認 |
| 10/23夜例会を6F会場にて開催 | |

- 会場 青少年育成センター
- ・米山記念奨学会より 感謝状送付の件
マルチプル米山功労者5回 高橋彰雄会員
マルチプル米山功労者2回 山本 賢会員
米山功労クラブ15回目
 - ・渡辺GBより
ロータリーの友10月号に地区大会に来ていただくRI会長代理南園義一氏の投稿が載っていますので是非ご覧下さい。（横組32頁）

委員会報告

- ・社会奉仕委員会：
今年度社会奉仕事業の1つとしてハンディキャップを持った青少年少女をアルビレックス新潟の試合観戦に招待します。つきましては当日会員の皆様からもお手伝いをお願いします。10月27日（土）12：00出発。詳細は配布の案内をご覧ください。

「働きは最上の喜び」

－ 勤 労 歓 喜（きんろうかんき）－

人はただ生きているだけでは、何の意味もない。働いてはじめて生きがいがある。働いている時が、ほんとうに生きている時である。何もせずに、ぼんやり過した1日は、死んだ1日である。

じっとしていなければならぬほど、困ったことはない。仕事のない時ほど、つまらぬことはない。職を止めると、間もなく死んでしまう人の多いのは、仕事がなくなると同時に、気がぬけてしまうからである。

そして働く人は健康であり、働く人は長命である。世の人は、身体が悪いから働けない、というように考えているが、それは反対である。働かないから（こわごとと恐れたり、いやいやながらなまけたり）働く心がならぬから、体が弱々しいのである。病気になってからでも、出来る仕事を心配なく働きつづけていたら、それ以上悪くならないばかりでなく、次第によくなってくるものである。実はほんとうの働きの意味を知って働きはじめると、たいていの病気が直ってしまうのは、ここに幾百千の体験が証明している。

働きが一切であり、働きが人生である。働きが生命である。この働きには、そのままに、必ず「報酬」がついている。金銭でうける「報酬」は、多少があり、不公平があったりするかもしれぬが、この自然にして当然に受ける報酬は、かならず働きに比例して、落ちもなく、忘れられもせず、必ず直ちに与えられる。それは「喜び」という報酬である。ま心で働いた時、必ず喜びがわく。何の期待もなく、予期するところもなく働いた時、おのずからに感ずる喜びは、他のどんな喜びにもかえることは出来ない。

まことの働きには、すでに「喜び」という無上の報酬が与えられているので、いわゆる普通の給与は、喜んで働く人を、養い、歓待する天のめぐみである。いや、自然に与えられる割増金であると、感謝してうけるのがほんとうであろう。

世に楽しみは多い。好きな物を食べる、美しい物を見る、よい着物をきる……いろいろの喜びの中で、どれほどつづけるも、如何にひどくても、いよいよ高まり深まって行くのは、働きに伴う喜びである。地味で素朴で尽きぬ喜び、中でも、まことの働きにより、人を助け、人を救い、人の喜びをわが喜びとする、その喜び、これこそ地上無比な喜びである。

元来仕事そのものには、上下貴賤の別があるのではない。職業には尊卑はない。自ら軽んずる心を持つ働きを人が賤しと思い、自ら重んずる職業を人が尊ぶのである。つまらぬ仕事だとか、いやなことだとか考えて、仕事の好ききらいをする。こうした人は、一生涯たましいを打ちこんだ仕事につく事は出来ず、人生のまことの喜びを満喫する事は出来ない。

自分の只今ついている仕事の尊さを悟って、けんめいに働く時、自然に与えられる楽しみ、これは何物にも替えることの出来ぬ人生の喜びである、最高至上の歓喜である。

真の働きには喜びが伴うだけではない。肉体に健康も、物質の恩恵も、地位も名誉も、おのずからついてくる。

人が生きているということは、働くことである。働く喜びこそ、生きている喜びである。